

「医療安全に関するトピックス～いまだから知っておきたいこと、考えておきたいこと～」

九州大学大学院医学研究院医療経営・管理学講座准教授 鮎澤 純子

1999年、日本では大学病院や地域の基幹病院での医療事故が明らかになり、医療安全に社会的な関心が集まるようになった。奇しくもこの年、後に「世界の医療安全の起爆剤となった」といわれることになる医療事故の現状と対策に関する報告書「To Err Is Human」が米国で発表された。以降、医療安全は世界的な課題として位置づけられ、日本でも、新しい視点で、現場のみならず国を挙げての取り組みが進んできた。しかし、いまなお、医療への信頼を失いかねない医療事故が報じられているのも事実である。現場の医療安全の取り組みのみならず組織のあり方そのものについても真摯に見直しつつ、「これからの医療安全」を考えていかなければならない。

医療を取り巻く環境も大きく変わりつつある。「機能分化」「地域連携」「地域包括ケア」をキーワードに医療システムの構築が進むなか、すでに一医療機関の安全が担保されればそれで済む時代ではなくなっている。医療と介護、病院と診療所と在宅・・・シームレスで質の高いサービスが期待されるのであればシームレスな医療安全、いくなれば「地域の医療安全力」という意識が必要な時代になっている。では「リハ」と「ケア」で紡がれる領域に期待される「これからの医療安全」とはどういうものだろうか。

変化する環境のなかでは医療安全の取り組みも変化に応じた進化をしていかなければならない。あらためて基本に立ち戻るとともに、近年のトピックスを紹介し、「これから」を proactive に考えたい。

まず、科学的な取り組みができてきているかを見直してみよう。その方策に科学的な根拠はあるのか。ITや自動化が導入され刻々と環境が変わるなか、とるべき方策が変わっていくはずであることも心に留めておく必要がある。そして、「レジリエンス」「ガバナンス」「ビッグデータ」「NCD」「AI」・・・新しい考え方や新しい技術で「これから」をどのように創っていくことができるのかを考えたい。

#### 講師略歴

1983年3月 東京理科大学薬学部薬学科卒業  
 1983年4月 東京女子医科大学附属病院薬剤部入局（研修生）  
 1983年10月 順天堂大学医学部附属順天堂浦安病院診療部薬剤科入局  
 1989年10月 東京海上メディカルサービス株式会社入社  
 1992年10月 ベスイスラエルメディカルセンター（ニューヨーク）出向  
 同メディカルセンター付属施設・東京海上記念診療所事務長として  
 1995年10月 帰国、業務部課長・メディカルリスクマネジメント担当  
 1998年1月 業務部メディカルリスクマネジメント室課長  
 2000年4月 業務部メディカルリスクマネジメント室次長  
 2001年4月 九州大学大学院医学研究院 医療経営・管理学講座 助教授 として着任  
 2006年10月 九州大学病院病院長補佐  
 2007年4月 九州大学大学院医学研究院 医療経営・管理学講座 准教授

#### 所属学会

ASHRM（米国ヘルスケアリスクマネジメント学会）  
 医療の質・安全学会（理事）  
 日本医療・病院管理学会（評議員）

厚生労働省医政局「医療安全管理者の質の向上に関する検討作業部会」委員（2006年）  
 厚生労働省医政局「診療行為に関連した死亡に係る死因究明等の在り方に関する検討会」委員（2007～2012年）  
 厚生労働省医政局「医療事故に係る調査の仕組み等のあり方に関する検討部会」委員（2012～2014年）  
 福岡県医師会「医療安全対策委員会」委員（2001～2015年）  
 日本医療機能評価機構「患者安全検討委員会」委員（2007年～）  
 医薬品医療機器総合機構「医薬品・医療機器安全使用対策検討会」委員（2007年～）  
 日本内科学会「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」福岡地域評価委員（2007年～）  
 日本医療機能評価機構「産科医療補償制度再発防止委員会」委員（2010年～）  
 日本病院会「医療安全対策委員会」委員（2010年～）